



# きやまち議会だより

No.82 2026.5.15 2、3月会議の情報をお伝えします 発行／長野県木曾町議会



4月10日  
御嶽山国定公園決定！

令和8年度

一般会計当初予算100億6000万円

ハード事業からソフト事業への転換



木曾町議会  
ホームページ

**問** 物価高騰対策の事業はどのような基準で選定しているのか。  
**企画財政課長** 町民のニーズや国の制度を踏

**審議の内容**

# 2月会議

2月会議（通年議会）は、2月3日に開催されました。町から提案のあった補正予算、専決処分事項の報告、人権擁護委員の推薦など4件の審議があり全ての案件が原案通り可決されました。

| 2月会議<br>(4件) |   |
|--------------|---|
| 補正予算         | 1 |
| 専決処分<br>報告   | 1 |
| 同意           | 1 |
| 継続審査         | 1 |

まえ、迅速性や幅広い支援を考慮して決定している。  
**問** 事業者支援を商工会員に限定している理由は。  
**観光商工課長** 商工会を通じて経営状況を把握し、適正に支援を行うためである。  
**問** エアコン設置補助の対象や見込みは。  
**保健福祉課長** 過去の3万円給付時は約1000世帯であり、今回はその2割にあたる約200世帯を見込んでいる。  
**問** 日義道の駅用地購入の活用方針は。  
**日義支所長** 休憩スペースやテラス設置など、施設と一体的に活用していく。  
**問** 森林DX事業の境界確定の方法は。  
**建設農林課長** AIDローン等を使って航空レーザー測量をし、その上で森林に精通された地権者の方々に説明をし、確定している。

# 3月会議

3月会議（通年議会）は、3月6日から13日までの8日間にわたり開催されました。10人が一般質問を行ったほか町から提案のあった条例改正や指定管理、補正予算、新年度当初予算など34件の審議があり全ての案件が原案通り可決されました。

一般会計当初予算は100億6千万円です

| 3月会議 (34件) |    |      |   |
|------------|----|------|---|
| 条 例        | 10 | 補正予算 | 6 |
| 規約変更       | 1  | 当初予算 | 6 |
| 財産処分       | 2  | 工事請負 | 1 |
| 路線認定       | 1  | 陳 情  | 1 |
| 計画改定       | 1  | 発 議  | 1 |
| 指定管理       | 3  | 委員選任 | 1 |

**総務課**

**問** 公共施設総合管理計画の改定とは。  
**答** 3期目の改定で、現在の資産価値などを考慮し改定するもの。  
**問** 土地賃借料は1億円を超えているが減らしていくべきでは。  
**答** 不要になった土地など返却していく方針である。  
**問** 指定管理施設が多すぎないか。以前、分析し検討するとの回答だったが。  
**答** 個別に見直しを検討する。  
**問** 回覧が月1回となるが後退ではないか。また伝達状況の分析は。  
**答** 発信するだけでなく、どのように伝わったのか検証していく。  
**問** 経済センサス統計調査のデータの公表が3年経過しないと公表されない。調査収集は町で行っている。町が独自に公表できないのか。

**答** 統計調査法があるためできない。国・県に早期公表を要望する。  
**問** 木曾町は多額の負担金を広域連合に拠出している。各事業へのチェック体制はあるか。  
**答** 各事業の課題・進捗状況など広域の組織で会議を行っている。決算で余剰金が出ないよう予算精度を上げるよう要請している。

**企画財政課**

**問** 地域自治組織交付金は、その用途について町は把握しているのか。  
**答** 事業については協議会の自主性で行っている。役場職員が関わり会計監査も行っている。  
**問** SNSで発信するが、町の公式と民間からの発信とは差別化できるのか。  
**答** 2ヶ月くらいかけガイドラインを設け、組織化してスピー

ディーに発信していきたい。  
**問** 町は「#木曾ひろめ隊」情報発信事業を、どんなイメージをもって進めるのか。  
**答** 例えば町の現場に出る担当者が風景などの写真を撮り企画財政課で町を発信するイメージ。  
**問** 児童がレゴワークショップで、木曾町の将来について具現化している。町は具体化に向けて考えるのか。  
**答** 具体化に向けるのではなく、地域の子どもの思いを各自協議会に問いかけ各地域の取組としたい。将来地域に帰ってきてもらえる様なきっかけにしたい。



レゴワークショップ

保健福祉課

**問** 母子保健事業について、妊産婦の助成金は健康保険の自己負担分を補助するものか。

**答** 対象は妊婦健診に限られる。

**問** 医療機関を変更する際の紹介状費用が出ないと聞いたがどうなっているか。

**答** 木曽病院で分娩ができないため他医療機関を利用するが、連携体制や公平性の観点から紹介状は原則有料としている。

**問** 社会福祉協議会への予算が前年度比で約10%増となっているが妥当か。

**答** 人件費の増加や財務・介護システム整備費（約500万円）を含め、前年度比約1000万円増の約8000万円を計上している。介護施設運営分は約50万円減の2400万円とした。

**問** 経営が厳しい民間

**介護事業者への配慮は。**

**答** 原則として町の補助は行わないが、報酬改定の影響を受けたホームヘルパー分野については、2事業者に限定して支援を予定している。

**問** 物価高騰への対応は。

**答** 国や県の方で価格高騰対策の事業ができたら町も各事業者へ補助を考えたい。

**問** 災害救助経費が減額されている理由は。

**答** 災害見舞金について、近年支給実績がないため、1件分（10万円）の計上とした。

建設農林課

**問** 繁殖雌牛導入等補助金で730万円盛られているが、飼育農家の現状はどうか。

**答** 畜産農家は高齢化等により減少傾向にあり、現在は19戸・164頭である。導入補助により経営の下支えを

図るとともに、関係機関と連携しながら担手の確保・育成に取り組んでいる。

**問** 補助金は今後も継続されると思うが、増えていくのか。

**答** 制度を開始したところであり、できるかぎり支援をしていきたい。

**問** スローフード事業において、すんきは非常に重要だと考えているが、減額理由は。

**答** スローフード木曾は後継者不足により運営が困難となり、委託規模を縮小したためである。一方で、すんきは重要な地域資源であるため、品評会の開催などにより普及啓発を継続する。

**問** 木の産業づくり推進事業について、予算が大きく減額されているが、事業の最終的な目標や産業全体の構想はどのように考えているのか。

**答** 予算減額は事業縮小ではなく、年度ごとの整備内容によるもの。森林資源を活用し、伐採から加工・流通まで一体化して林業の再生と産業化を目指す。ヒノキやカラマツのブランド化を進め、土場整備や機械導入を段階的に行い、事業の具体化を図る。

**問** 土場の管理事務所の運営は誰が担うのか。

**答** 木材の保管管理や出荷事務のため整備するもので、整備後は基本的に森林組合への管理委託を想定している。今後は町内事業者と連携して活用を協議する。

**問** 製材所整備の考えは。

**答** 必要性は認識しており、現在は郡内施設を活用しているが、将来的には地域内での加工体制構築も含め検討していく。

**問** 森林造成事業の減額理由は。

**答** 減額は事業者からの申請面積に基づき精査した結果であり、事業自体を縮小するものではない。主伐後の再造林への重点化を図りつつ、間伐や作業道整備など必要な施策には引き続き補助を行い、森林整備を進めていく。

**問** 有害鳥獣対策の強化策は。

**答** 大型檻の設置に加え、遠隔操作型の導入を進める。捕獲後は個体の行動把握も行い、効果的な防除につなげる。

**問** 被害は年々増加しており、木曽郡全域に広がっている。処理実績を踏まえ、防除経費を計上し、被害拡大防止に取り組む。

**問** 農業基盤整備促進事業について、排水改良などの対象となる農地の規模や事業内容は。

**答** 本事業は農地改良全般ではなく、開田末川地区における土地改良工事であり、令和4年の豪雨で被災した頭首工の復旧を目的としている。

**問** 農業機械整備事業の申請状況は。

**答** 農業者等からの申請に基づき予算計上しており、枠を制限したものではない。制度の周知を図り、活用を促進していく。

**問** 農業機械等整備事業について、補助制度の見直しにより申請しにくくなり、希望者が減っているのではないか。

**答** 制度見直しにより



大型檻内部

**問** カシナガキクイムシ対策の状況は。

**答** 制度見直しにより

申請しにくくなったとは認識していない。認定農業者を含め、必要な機械について申請は継続している。今後も要望を踏まえ必要に応じて制度の見直しを検討していく。

**問 多面的機能支払交付金事業は、どのような活動が対象となるのか。**

**答** 3集落において農地や水路、農道の維持管理を共同で行う活動に対する支援であり、年間を通じた継続的な取り組みが対象となる。

### 観光商工課

**問 移動購買車事業の運用は。**

**答** 三岳地区で試験導入し、事業者へ委託して運行する予定。二



木曾福島駅前の様子

ズ調査を踏まえ、秋頃の開始を目指す。採算性や運営方法については、実施しながら検証していく。

**問 駅前整備とJRとの関係は。**

**答** 駅利用者の増加が路線維持につながるため、駅前環境の整備と観光振興を一体的に進める。

**問 御嶽山麓の観光振興の考えは。**

**答** 国定公園化を契機に観光資源の活用を進め、山麓地域への誘客と地域経済の活性化を

図る。

**問 DMO推進事業の役割は。**

**答** 観光資源の情報発信や商品化を担い、特に山麓地域への誘客強化に向けた取り組みを進める。

**問 企業誘致の方針は。**

**答** 新規誘致は厳しい状況にあるため、既存企業の支援や実態調査を通じて地域産業の強化を図る。

**問 観光PRの内容は。**

**答** 雑誌広告や空港での掲示などにより、広域的な情報発信を行う。

**問 リフォーム補助金の状況は。**

**答** 前倒しで予算措置し募集を開始しており、残額は次年度へ繰り越して実施する。

**問 観光と農業の連携は。**

**答** 体験型プログラムを商品化し、観光と組み合わせることで担い手確保と地域の魅力向上につなげる。

**問 観光イベント補助**

の状況は。

**答** 前年並みの予算で各種イベントを支援し、地域と連携して実施している。

### 環境水道課

**問 バス停留所整備事業は新規事業であるが、その内容は。**

**答** 広域幹線ルートとの交差する乗継結節点の整備・改修を実施する。施工箇所は巴淵と黒川ダムである。

### 子育て教育課

**問 インスパイアハイとは。**

**答** これは世界とつながる学びを実践できるプログラムである。自分の課題を設定して、著名人などと交流し自分の考えを作っていくもので、2学期参観日などで成果を発表していきたい。

### 生涯学習課

**問 図書館の蔵書数は。**

**答** 現在5万4千冊だが、人口規模から6万冊が妥当である。令和8年度は3千冊購入予定。



木曾町図書館

### 日義支所

**問 木曾駒オートキャンプ場は地域観光にとって重要であると考えますが、入場者の現状は。**

**答** 指定管理者が変わって利用者数が6倍くらい増えた。管理棟の改修は本来町が行うべきところ、指定管理者が自ら行っている。

### 条例・指定管理・補正予算等

国民健康保険税や保険制度に関する条例改正が行われたほか、乳児等通園支援事業に関する条例、消防団員等の公務災害補償に関する条例が可決された。

観光分野では、二本木温泉や御嶽山ビジターセンターなどの指定管理者が決定され、今後の運営体制が示された。

さらに、一般会計や国保、水道などの補正予算が可決され、まちづくりやインフラ整備に関する議案も審議された。

# 自治功労表彰受賞

## 元議員のメッセージ



千村 孝男

### 議会・議員在任中の思い出

39歳の時（平成3年4月）に開田村の村議会議員に初当選してから昨年11月に木曾町の議員を退任するまで、34年間務めることができました。一番の思い出は、木曾福島町・開田村・日義村・三岳村の4町村の合併を承認するかどうかの時、賛成6・反対5の1票差で開田村議会が可決できたことです。この可決があって、今の木曾町の姿になりました。

### これからの議会・議員への要望・期待

今一番の課題は人口減少対策でしょう。北海道の「東川町」は人口8,400人の町で地域おこし協力隊員が75人を超えて採用されており、人口増加をしているとのこと。そんな先進地事例を見習って、減少スピードを少しでも遅くする政策を町当局と協力して実現していただきたいと思います。



上田 とめ子

### 議会・議員在任中の思い出

今も住民のために活用されている「緊急通報システム」。孤独死をきっかけに導入を求めたもので、議員として認められる契機となりました。

### これからの議会・議員への要望・期待

目まぐるしく変化する諸課題に対し、しっかりと精査をしつつその必要性を見極めながら取り組んでほしい。住民に説明できる姿勢を持つこと。



中村 博道

### 議会・議員在任中の思い出

議会活動の思い出は、御料館復元での修正動議提出や町文化交流センター建設における「公共施設あり方検討会」、JR木曾福島駅のエレベーター設置などで多くの議論が交わされたこと、議会モニター制度導入で多くの人と交流できたことです。

### これからの議会・議員への要望・期待

町政に対する提言とチェックの強化、そのために各委員会の活性化や議員間討議の活発化を期待します。引退した人たちは多くの経験や智恵が蓄積されていますので気軽に相談してください。



中村 博保

### 議会・議員在任中の思い出

一番は、町村合併後、地域ごとに多くの課題や問題点がある中、全議員で議論や検討を重ね、木曾町の将来やあるべき姿について計画を進めることができたことです。

### これからの議会・議員への要望・期待

町民の要望に耳を傾けながら、日々の活動と研鑽を通し、町民の代表として行政をチェックする能力を高めていただきたいと思います。

# 10人が町政を問う

## 一般質問通告要旨

一般質問は、町政のあらゆる課題について、町長や教育長、担当課長に対して質問を行う場です。町政のチェックや政策提言など、町政のより良い発展を目的とした、議員の重要な活動の一つです。  
 一般質問は、年4回の定例会で行われ、事前に質問内容の通告が必要となっています。議員一人あたりの質問時間は30分で、1問1答方式により質疑応答が行われます。  
 この欄には、質問者が事前に提出した通告内容の要旨を掲載しています。  
 YouTubeに掲載している一般質問の動画について、2年以上前のものは配信を終了しました。

- 原田 徹哉 議員** P 6  
 ・木曽町総合計画の進捗
- 平井 武平 議員** P 7  
 ・地籍調査事業（国調）  
 ・自助・共助・公助のうちの共助
- 下島 里美 議員** P 7  
 ・当町の「こども誰でも通園制度」とは
- 棚本 力 議員** P 8  
 ・国民スポーツ大会取組  
 ・消防団員の確保
- 下條 広行 議員** P 8  
 ・防災・減災に資する道路、橋梁及び上下水道設置箇所の路面下空洞調査の実施
- 松井 淳一 議員** P 9  
 ・加藤町長の所信表明

- 児野光九仁 議員** P 9  
 ・御嶽山国定公園指定にあたって取り組むべき課題  
 ・木曽福島駅前駐車場の整備
- 寺内 健 議員** P 10  
 ・小中学校でのさらなる郷土愛の醸成  
 ・災害発災後の防災対策  
 ・行政の透明性の確保及び説明責任  
 ・中学校の跡地活用の検討方針と手順  
 ・ふるさと納税@電子クーポンの今後の推進方策
- 目黒 碧 議員** P 10  
 ・兼業農家等への支援  
 ・学校における除草剤使用  
 ・ハラスメント防止対策
- 征矢野隆夫 議員** P 11  
 ・地域農業の将来

## 総合計画…人口減少の取組と効果は

### 企画財政課長 事業の推進により移住者数が伸びている



原田 徹哉



質問者の動画が見られます

**問** 結婚・出産・子育て事業では、結婚数、出産数などの効果は出ているか。加えて、生産人口15歳〜64歳までの人口動態と予想は。

**企画財政課長** 効果

が出たとは言えないが、生産年齢人口は少子高齢化が加速し人口減少も含め厳しい状況だ。高齢者の雇用環境の整備・子育て支援を促進しUIJターンにつなげていく。令和8年度新規事業の「#木曽町ひろめ隊」などでスピーディーな情報発信を計画している。

**問** 人口減での、生産年齢人口減少は町の労働力・生産性が低下し、地域社会の消費が縮小し地方税収の減収、扶

**助費・インフラ維持管理費の一人当たりの負担が大きくなるが、義務的経費にウエイトをおくことで産業振興・子育て支援策など「未来の投資」に予算を回せるのか。**

**企画財政課長** 必要経

費を確保し経常経費を削減することで政策的な経費を確保していく。地域振興基金など財政出動し未来への投資を選択しと集中により厳選した事業展開をしている。

**問** 教育現場のDXは、働き方改革推進の目的があったが効果は。

**子育て教育課長** オン

ラインでの保護者連絡、校内データのリアルタ

**問** 学習指導以外の校務負担が増加しないか。

**子育て教育課長** DX

で負担が減った面もあるが、当町も残業時間など改善の方向ではあるが多くの減っていない状況だ。様々な取組みを入れ教職員の働き方の改善をしていきたい。



# 福島地区の国調を 早急に完了

## 建設農林課長 実施方法を根本的に検証し地籍調査を加速する



ひらい たけひろ  
平井 武平



質問者の動画が見られます

**問** 福島地区の法務局登記完了面積は何%か。

**建設農林課長** 計画面積40km<sup>2</sup>に対して2・16km<sup>2</sup>で5・4%登記済。

**問** 残り全てを完了するシミュレーションは。

**建設農林課長** 1調査区を2年で進めると令和43年（35年先）に完了予定。

**問** 早く事業を推進する施策は。

**建設農林課長** 現状では、相続未登記の増加、高齢化による現地立会いの境界確認困難、不在地主の増加など課題があり調査が鈍化して事業完了まで1調査区3〜4年間を要している。その為地籍調査推進計画を作成し未登記調査区域の解消に努める。

**現状の事業実施方**

法を見直す必要があるのでは。

**建設農林課長** 現行体制の見直し、財源や地元測量業者の人材確保、また関係地権者に事前周知・説明を徹底してスムーズに事業の推進を図れるように取組む。

### 自助・共助・公助のうちの共助について

**問** 高齢者二人暮らし、一人暮らしの方に軽微な作業等を共助（地域の住民の皆さん）の力で対応するには。

**保健福祉課長** 木曾町の65歳以上の高齢者世帯は約2,800世帯で全世帯の約6割を占める。日常生活における『ちょっとした困りごと』の解決は、切実な課題。近隣住民による『共助』の力は、地

域コミュニティの活性化・孤立防止、さらには見守り活動につながる。木曾町では平成28年から社会福祉協議会と連携し、生活支援体制整備事業として生活支援コーディネーターを配置し、支援を必要とする方と協力したい方を適切に結びつけるマッチングを実施しています。

**問** 頼む側も頼まれる側も気兼ねなく対応できるようにボランティアのポイント制を導入する考えはないか。

**町長** 現在ある木曾町行政ポイントスタンプカードとの整合性を検討し可能かどうか見極めていきたい。

# 当町のこども誰でも 通園制度とは

## 子育て教育課長 運用面は実質一時預かりと同等



しもじま さとみ  
下島 里美



質問者の動画が見られます

**問** 対象は生後6カ月から2歳の未満児である。町の保育事業は公立のみのため保護者の一定の安心を得ているが、保育の実績のない民間も実施できる。町内で動きはあるか。

**子育て教育課長** 現時点ではない。

**問** 通園制度の配置要件を満たせるか。また、受入人数や時間帯は。子育て教育課長 配置要件は対応できる。1日の受入れの上限は2名まで。午前中に受け入れ、上限は国が定める通り月10時間とする。

**問** 利用があったときだけの収入となるので単独の事業としては難しい。一般財源への影響をどう見るか。

**子育て教育課長** 経費は人件費であるが、制

度のために増員することはないので影響はない。

**問** 利用時間が短い中では親から離れた環境に慣れづらい。先生方の負荷も高まる。制度上町外者も利用できるが、事前に離乳食や睡眠等の状況把握がなければ受入れは難しいのでは。安全面の確保も含めどのように運営していくか。

**子育て教育課長** 慎重に進めていく必要がある。信頼関係が前提である。子どもの状況や発達の段階を把握し、リスクを抑えながら進めていくという面で非常に難しい面がある。安全が確保できる時間帯や場所を十分選別しながら運営せざるを得ない。

事前の相談や面談の中でしっかりと対応していきたい。

**問** 事実上、当町のこども誰でも通園制度は一時預かり事業と同等か。

**子育て教育課長** 国の制度設計では異なる事業だが、子どもの育ちを支える点、また働く保育者の視点で切り分けることはかえって分かりづらい。運用面では実質同等である。



通園制度は子育て支援センターの一時預かりで実施する

# 国民スポーツ大会 受入れ体制は如何に

## 副町長 令和9年度から大会推進室を設置する



ちから とももと 榎本



質問者の動画が見られます

**問** 生涯学習課は事業量・休日勤務が多い。体制をどの様に進めるか。

**副町長** 今の体制で課内調整して進める。

**問** 木曽音楽祭と重複する。どう取組むか。

**生涯学習課長** 木曽音楽祭は歴史のあるイベントなので、開催しないという選択は考えていない。実行委員会などと相談しながら、職員の仕事軽減を図る方法を模索していく。

**教育長** 負担の見直しを図り開催時期、規模など在于り方を検討する。

**問** 地域の各種団体、自治協議会等の連携は。

**生涯学習課長** 4月末に実行委員会が設立される。自治協議会などの方々も委員になってるので、その中で連

携をとって進めていく。

**問** 公民館の在り方は。

**生涯学習課長** 木曽福島公民館を中央公民館、他の三地区公民館を地区館とする。中央公民館以外の館長は非常勤とする。地区館の職員は支所の職員と兼務とする。

**問** 木曽町公民館では。

**教育長** 文化交流センターを拠点として中央公民館とする。

**問** 国スポを関係人口拡大に繋げてほしい。

**町長** 良い機会なので政策として取り組む。

## 消防団員確保のために

**問** 団員状況は。

**危機管理室長** 定数は320名、団員数256名。推移はこの5年



信州やまなみ国スポ木曽町会場

140名退団、73名入団。減少傾向で厳しい状況である。

**問** 分団の編成替えは。

**危機管理室長** 11分団と12分団の統合である。

**問** 団員所属企業に減税検討しないか。

**危機管理室長** 長野県の制度を活用頂く。

# 防災・減災に資する道路、橋梁及び下水道施設の路面下空洞調査の実施について

## 建設農林課長 点検計画の策定や点検方法については今後検討する

### 環境水道課長 リスクの把握を行う



ひろゆき 下条



質問者の動画が見られます

**問** 令和7年1月28日、埼玉県八潮市の交差点で道路が陥没し、トラックが転落する事故が発生した。下水道管の破損に起因するとみられているが二度と同じような事故を起こさないための再発防止を強化すべきである。道路橋梁等の定期点検調査状況、補修工事の進捗状況、常時施設の安全管理体制を教えてください。

**建設農林課長** 定期点検は5年間隔で、3巡目の点検を実施している。結果に基づき、令和5年度に橋梁トンネル長寿命化修繕計画を策定して優先順に補修工事を行っている。補修措置が必要な橋は、70橋、工事着手34

橋、工事完了は15橋である。常時管理は道路パトロールで確認を職員で行っている。また、ホームページの道路災害通報システムによる情報提供を受け、修繕を行っている。災害発生時は支所単位で全庁横断的に対応していく体制である。

**問** 下水道管の老朽化と腐食について、下水道管は既に30年以上経過しており、老朽化が懸念される。下水道の点検調査状況、常時施設の安全管理体制は。

**環境水道課長** 令和5年度に点検調査診断業務を実施、管路修繕改築計画を策定した。老朽化は深刻な段階になると確認している。現在町直営による迅速な

維持管理体制を敷いている。

**問** 道路、橋梁等、下水道の点検に路面下空洞調査を実施する考えはないか。

**建設農林課長** これまで路面下空洞調査は実施をしていない。点検計画の策定や点検方法については今後検討していく必要があると考えている。

**環境水道課長** 下水道は環境修繕改築計画を策定済みである。調査結果を最大限に活用し、リスクの所在の正確な把握に努めていく。



塩刈汚水中継ポンプ場より望む

# 「稼ぐ力」とは

## 町長 付加価値を大きくし、生産性を高めること



まつい じゅんいち  
松井 淳一



質問者の動画が見られます

**問** 町長の所信の中で「稼ぐ力を身に着ける」とあった。何をもち「稼いだ」というのが明確にすべきだがいかがか。ゴールやプロセスを住民、議会、町が共有することが大切で三者のベクトルが同調しなければ前に進めない。

**問** 「稼ぐ力」という概念を植えることが大切だ。様々な政策を実現していく中でこの町がどうなっていくのか、どうよくなっていくのか町民の皆さんに発信していきたい。

**問** 産業分野ごとに「稼ぐ力（生産性）」を整理したらわかりやすいかがか。

**観光商工課長** 観光事業においては滞在型商品の造成、観光と農業を結び付けた商品開発、地域循環型経済の推進、DXの推進が付加価値の増につながる。

**建設農林課長** 6次産業化のさらなる推進、高冷地農産物のブランド化、基幹作物3種の生産維持、推進、観光農業等を進め付加価値を高めたい。

# 御嶽山国定公園指定にあたっての課題は

## 観光商工課長 県補助金等を使いながら、安全確保と整備を進めたい



ちごの みつくじ  
児野 光九仁



質問者の動画が見られます

**問** 御嶽山国定公園指定にあたって、行政は自然文化資源の保護と継承をどのように考えるか尋ねたい。

**三岳支所長** 環境保全の取り組みは、登山道の整備を継続的に行っている。登山者の安全確保や登山道外への侵入による高山植物の踏み荒らし対策、ゴミの持ち帰りの周知徹底をしていきたい。

**問** 信仰歴史の継承については、昨年講習会を開催した。引き続き地域を知ってもらうために、住民が身近に参加できる場を提供していきたい。

**問** 観光客の受け入れ態勢についていかがか。

**観光商工課長** 木曾地域の観光は中山道宿場を中心としたものに集

**問** 中している状況にある。御嶽山周辺に波及させるには山麓地域が一体となって自然や文化といった共通テーマに基づくストーリー性のある周遊が不可欠と考える。王滝村とも連携し滞在時間を増やす取り組みを進めたい。

**開田支所長** 地域資源を活用した誘客を図りたい。おんたけ観光局などと連携して取り組みたい。

**問** 環境の安全確保について問う。

**危機管理室長** 避難シェルターの設置、防災行政無線の整備、小屋の放送設備の整備、携帯電話の不通解消を図ってきた。外国人登山者の増加も予測されるので対応を検討していきたい。

**問** 国定公園指定にあたって、町長の見解をお聞かせ願いたい。

**町長** 町として期待するところである。この先、新しい御嶽山の展開が見られれば素晴らしいと思う。

**問** 駅前駐車場の整備について、観光バス等駐車スペースがなく、不便である。対策を講じるか。

**観光商工課長** 駅前公園・駐車場整備は町長があげる政策の一つである。再整備のプログラムを実施し、整備計画をしたい。



開田高原から望む御嶽山

## 郷土愛の醸成さらに



てらうち けん 健 寺内



質問者の動画が見られます

### 子育て教育課長 歴史文化教育をより体系的に推進する

**問** 生徒や教師が複数の歴史文化教材を選択できるような見識を持つた方々を講師として多様な学びができる仕組みづくりを。

**子育て教育課長** 既存の仕組みをより強化し、地域ごとの歴史文化教育の素材の教材化や中学校統合を契機として、地域の歴史文化教育をより体系的に推進する。

### 発災後の防災対策大丈夫か

**問** 休日夜間の避難所の開設手順は。

**危機管理室長** 町の施設は役場職員が開設し、その他は区長や公民館長等が開設する。

**提** 近隣住民の開設や自動開設システム等も検討を。

**問** 開設キットを導入し実践的な避難所運営訓練が必要だが。

**危機管理室長** 導入方法や事務量等を次年度で研究したい。

**問** 備蓄品の種類が少ない。衛生用品等も含め今後の整備方針は。

**危機管理室長** 高齢者や乳幼児、女性等に対応できる衛生用品等の備蓄整備を進める。

**問** 危機管理室へ女性職員の配置が必要では。

**副町長** 人事は総合的なバランスをみてということになるが総務課の女性職員、保健師、女性消防団員の協力を仰ぐことで対応したい。

### 「検討する」と答弁したその後は？

**問** 検討の進捗状況が

わかる一覧表をつくるべきと思うが。

**総務課長** 決して言

いっぱなしとならないよう対応していく。

**提** 職員内だけでも進捗管理をお願いしたい。

### 中学校跡地どうする？

**問** どのような方針や手順で活用方法を検討するか。

**子育て教育課長** 子どもたちの特色ある教育に繋がっていくかどうかということを中心に、施設の利用を図っていきたい。



木曾町の歴史文化のシンボル

## 学校の除草剤散布をやめる考えは

### 子育て教育課長 地域協力も含め今後検討する

**問** 学校は子どもが長時間過ごす場所であり、環境の安全性への配慮が重要だ。町内の小学校で除草剤は使用されているか。また除草剤を使わない管理方法を広げる考えはあるか。

**子育て教育課長** 福島小・開田小・開田中は除草剤を使っていない。日義小中・木曾町中・三岳小は年1回使用している。使わない場合は管理負担が大きくなるため、地域の協力体制などを含め今後検討する。

### ハラスメントの実態把握と対策は

**問** 自治体職員へのカスターマーハラスメントが問題となっている。過去3年間の発生件数と相談件数は。またカスターマーハラスメントについては録音機能付き電話の導入が必要ではないか。また、職員間のハラスメントの発生件数は。外部相談窓口の設置をすべきではないか。

**総務課長** カスターマーハラスメントとしての正式な相談はないが、近い事案はあった。電話録音機能は機種や費用を研究している。職



めぐる みどり 目黒 碧



質問者の動画が見られます

### 小規模農業の支援を

員間のハラスメントは処分事案はないが、ハラスメントとなり得る事案が数件あった。外部相談窓口も含め体制を検討する。

**問** 農業者の高齢化が進む中、いきなり専業で農業を始めるのはハードルが高い。小規模や兼業から始める人への支援も重要ではないか。町の農家の状況把握と支援の考えは。

**建設農林課長** 農業機械導入や獣害対策の補助などは兼業農家も対象としている。地域計画の協議の場などで意見を聞き、必要な支援を検討する。



開田小学校の校庭

員間のハラスメントは処分事案はないが、ハラスメントとなり得る事案が数件あった。外部相談窓口も含め体制を検討する。

# 地域農業の将来について

建設農林課長

現に耕作され活用されている農地であっても農家の高齢化が進んでおり、今後できない方も増えてくる



たかの たかお 野 隆夫 征矢



質問者の動画が見られます

問 地域計画で作成された目標地図は、地区全体の農地を把握した

ものになっているのか。建設農林課長 昨年3月に新たに国からの指示で、全自治体で地域計画を策定した。目標地図は農業委員が各地区の農地の状況を把握して策定したもので、毎年ブラッシュアップし、協議の上、優良農地をどうやって残していくかが基本的考えである。

問 引き受け手がいない農地をどうしていくか。建設農林課長 担い手の確保が一番の課題だ。新規就農者、企業分化の生産面積の拡大、農村RMO（地域運営組織）等の団体でやって

いただければありがたい。

問 鳥獣害の対策はどう考えるか。建設農林課長 鳥獣害から農作物を守る防除と、駆除の先生が2名いる。令和7年度から信州大学工学部と3ヶ年計画で獣害対策プロジェクトを立ち上げ、実用化に向けて研究を進めている。

問 計画地図外の農地の活用について考えは。建設農林課長 地域計画のエリア外であっても、維持に取り組んでいる農地は引き続き維持していけるよう、町としても支援を継続する。逆に山林境界にある農地で、既に林地化しているところは、緩衝帯として獣害対策活用も考えられる。地域からの要望に応じてやっていく。

問 農業の将来についてどう考えるか町長の考えを伺いたい。町長 スマート農業とか6次産業化とか、CSA（コミュニティ・サポーターズ・アグリカルチャー）があり、コミュニティが農業を支えるという形の考え方に期待している。



目義地区、下島の水田群

## 議員の主な活動（1月～3月）

### 議会運営

全員協議会や議会広報特別委員会、議会運営委員会などを実施し、議会運営や広報編集に取り組みました。

また、2月会議・3月会議に向けた予算の説明を受けたり質疑を行いました。

### 地域・行政との意見交換

各地区での行政懇談会や、地域の農業、将来を考える会に参加し、地域課題の把握に努めました。

### 広域・関係団体活動

木曽広域連合議会や各常任委員会、長野県町村議会議長会総会などに出席し、広域的な課題について協議しました。

### 福祉・地域づくり関連

地域包括ケア会議や国民健康保険運営協議会などに参加し、福祉・医療分野の施策について検討しました。

### 各種行事・式典

自治功労表彰式や地域団体の行事、学校・こども園の卒業式、金婚式などに出席し、地域との連携を深めました。

## 木曽町議会構成

### 議会改革特別委員会



委員長 寺内 健

副委員長 児野光九仁

委員 平井 武平 征矢野隆夫 目黒 碧 大目富美雄

# 政治への関心を自分事へ

前木曾町立木曾町中学校／現塩尻市立広陵中学校 教諭 近藤裕吾



意見を交わし、地域の政治について考える生徒

中学校第3学年の社会科学（公民的分野）において、政治学習は中核をなす領域です。しかし、本来身近であるはずの地方政治も、生徒にとっては「遠い存在」となりがちです。そこで地方政治を自分事として捉えさせることを目的に、木曾町議会議員選挙に合わせた体験型学習を導入しました。

まず、行った立候補者へのアンケート調査では、「立候補の動機」や「地域の課題」など、生徒自らが考案した6つの質問を通じ、中学生の視点から政治の核心に触れようとなりました。得られた回答をもとに、「アンケートの名前を伏せた政策本位の模擬投票」と「公報等の公開情報を加味した模擬投票」の二段階を経て、実際の投票結果と比較分析する事後学習を行いました。

本実践による意識の変化は顕著でした。事前調査では木曾町の政治に「関心がない」とした生徒が約85%に達していましたが、事後には約95%が「関心がある」へと転じました。生徒の振り返りからは「父と議会について対話するようになった」「自分たちも無関係ではいられない」「早く選挙権がほしい」といった記述がみられました。これらの生徒の意識の変化は、リアルタイムの選挙と連動させた点にあると考えています。生徒自らが問いを立て、候補者の生の声に触れるプロセスを通じて、知的好奇心が刺激され、未来の有権者としての当事者意識が醸成されたと言えます。日頃から主体的な姿勢を持つ生徒たちに対し、外部機関と連携した学習を提供できた意義も大きいです。

本実践の実施にあたり、多大なるご協力をいただいた木曾町議会事務局、および真摯にご回答を寄せてくださった立候補者・議員の皆様、この場を借りて深く感謝申し上げます。

## 議会の傍聴してみませんか

町議会では、議員がどのような発言をし、どんな思いでまちづくりを考えているのかを、直接聞くことができます。

議会は原則として毎月開催されており（通年議会）、議員が町政について質問や提案を行う「一般質問」は、3月・6月・9月・12月の年4回行われます。

皆さんも議会の傍聴してみませんか。

次回の一般質問

日時：6月8日(月)予定

傍聴の方法など、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局 電話 22-4288

## 表紙の写真 御嶽山、国定公園に決定！

4月10日、御嶽山が国定公園に正式指定され、全国58番目の国定公園となりました。標高3,067メートルを誇る火山性の独立峰である御嶽山は、連続的に変化



雄大な霊峰御嶽山

する豊かな自然植生と、古くからの山岳信仰に代表される自然と文化が融合した場所として高く評価されました。国定公園となったことで、この雄大な自然が国によってより強く保護・継承されるとともに、観光客や関係人口の増加を通じて、木曾町の活性化につながる事が期待されます。

## 編集後記

世界全体が混迷の中でも5月となり新緑が目に見え、鮮やかな季節となりました。先月3つの中学校が統合し三岳地区、王滝村を含めた木曾町唯一の新たな木曾町中学校が始まりました。持続可能な地域づくりをするために必要なこと、少子高齢化、人口減少に立ち向かうために必要だと思えます。エリス・ポールディング博士の言葉『平和は、単に危機に対処するだけでなく、お互いが日常的に助け合う中にあります。家庭、そして地域社会こそが、極めて重要な平和の出発点なのです。』新たな木曾町中学校が地域発展の出発点になることを祈ります。（下條広行）

### 議会広報特別委員会

- 委員長 目黒 碧
- 副委員長 下條 広行
- 委員 原田 徹哉
- 委員 寺内 健
- 委員 児野光九仁
- 委員 征矢野隆夫

